

岡山短期大学幼児教育学科

教育職員免許法施行規則

(昭和二十九年十月二十七日文部省令第二十六号)

第二十二條の六 認定課程を有する大学は、次に掲げる教員の養成の状況についての情報を公表するものとする。

一 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること。

岡山短期大学の建学の精神「教育三綱領」は、

自律創生：道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹：目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄：社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

であり、教育理念は、岡山短期大学の教育理念は、学生一人ひとりが強い信念をもち、それぞれが志した学習目標を達成し、本学で修得した知識、技能および免許・資格を活かした進路を確実に得、本学および社会の発展に寄与する人材を育てることである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、保育者養成の教育目標を達成することを使命とする。

幼児教育学科の教育目標

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、乳児期への学びの連続性を考えることができる保育者を養成する。

本学科の保育者養成の教育目標

- ① Society 5.0時代のAIに代表される技術革新の進歩やIoTの広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の20年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成する。
- ② 幼児教育において育みたい「資質・能力」の三つの柱「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「学びに向かう力、人間性等」を育成することのできる保育者を養成する。
- ③ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むことに向けて指導ができる保育者を養成する。
- ④ すべての子どもが安心して過ごせるよう、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの生活状況や実態に合わせて気持ちが前向きになるよう満たすような働きかける養護

と幼児教育を一体的に展開するために、保育の実際を評価し保育を改善し続けることができる保育者を養成する。

更に、卒業後の目標として、次の、公務員となる公務員養成コース、及び Society 5.0 時代の保育者となる Society 5.0 保育者養成コースを設ける。

※ Society 5.0 とは（内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/）

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）である。

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画（平成28～令和2年度）において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

Society 5.0 で実現する社会は

IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。

また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。

社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となる。

公務員養成コース

基礎教育科目の「公務員講座（A）」「公務員講座（B）」で公務員試験出題科目を集中的に学習すると共に、「卒業予備研究(B)」「卒業研究（A）」を通して集中的に公務員試験受験のための社会人基礎力を獲得し公務員試験に合格する。

Society 5.0 保育者養成コース

基礎教育科目の「ソサエティ 5.0 理解」「情報処理基礎」「情報処理演習」「ICT リテラシー（A）」及び「ICT リテラシー（B）」の学習を通して Society 5.0 時代の保育者に必要な ICT 技術を修得すると共に、「卒業予備研究(B)」「卒業研究（A）」「卒業研究（B）」で「模擬保育室」「保育相談実践室」の Society 5.0 化を研究し Society 5.0 時代の保育者になる。

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基に、自律した信念のある社会人となることである。

学科の専門学習では、Society 5.0時代の現場に即応する保育者（幼稚園教諭・保育士）になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

I. 専門的学習成果

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、乳児期への学びの連続性を考えることができる能力を獲得する。

II. 汎用的学習成果

社会人として求められる態度、信念、意見、価値、コミュニケーション能力を獲得する。社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己管理の能力を、また職業生活や社会生活に必要な情報リテラシーや数量的スキル、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位：短期大学士（幼児教育学）

Society 5.0時代の現場に即応する保育者になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習を通して科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業認定の際に獲得していることを求める学習成果は次のとおりである。

Society 5.0時代の現場に即応できる保育者に求められる専門的学習成果と社会人・職業人として求められる汎用的学習成果を獲得している。

教育課程編成・実施の方針

卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を30単位とするため、基礎教育科目及び専門教育科目と合わせた単位の上限を30単位とし、可能な限り25単位に近づけるように科目を開講する。

専門教育科目の編成と実施

幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目と、保育士資格取得に必要なカリキュラムを編成する。

授業の実施は、専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果をも獲得できるように実施

する。

基礎教育科目の編成と実施

免許法施行規則の第66条の6に定める科目と共に、卒業後、公務員となる公務員養成コース及び Society 5.0時代の保育者となる Society 5.0 保育者養成コースに必要な授業科目を編成する。

意欲ある学生に対して図書館司書を取得できる科目を編成し、実施する。

入学者受入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・自分のなりたい保育者像が明確である。
- ・子どもが好きで、心身ともに健康で、何事にも積極的である。
- ・幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得し、卒業後保育者として働く意志が強い。
- ・ Society 5.0時代に必要なスキルの修得意識が強い。
- ・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・体育や図画工作、音楽が好きで、特にピアノについては、基礎技能を身に付けようと努力できる。

二 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関する事。

【大学が独自に設定する科目】

施行規則に定める 科目区分等	令和2年以降			
科目 区分	授業科目	単位数		担当教員
		必	選	
大学 が 独 自 に 設 定 す る 科 目	幼児と音楽Ⅰ (A)		1	河原真理講師
	幼児と音楽Ⅰ (B)		1	(河原真理講師)
	幼児と音楽Ⅰ (C)	1		(河原真理講師)
	幼児と音楽Ⅰ (D)	1		(河原真理講師)
	幼児と音楽Ⅱ (A)	1		(大羽敬子)
	幼児と音楽Ⅱ (B)		1	(大羽敬子)
	幼児と体育 (A)	1		(吉田升)
	幼児と体育 (B)	1		(吉田升)
	幼児と図画工作		1	(関野智子)
●単位数	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の免許状取得のための必修科目（選択必修科目の単位数を含む） ・教員の免許状取得のための選択科目 ・他の科目区分の単位数のうち最低修得単位数を超えている単位数の合計 			5 単位 4 単位 16 単位

教育職員免許法施行規則第6条の6に定める科目

免許状の 種類	免許法施行規則に定める科目及び単 位数		左記に対応する開設授業科目			担当教員 (非):非常勤
			授業科目	単位数		
学科	科目	単 位 数		必修	選択	
幼二種免	日本国憲法	2	日本国憲法		2	(近 勝彦) (非)
	体育	2	体育実技		1	(吉田升)
			体育理論		1	(吉田升)
	外国語コミュニケーション	2	英語 (A)		1	(花田春香) (非)
英語 (B)				1	(花田春香)	
情報機器の操作	2	情報処理基礎		2	(納庄聡) (非)	
		情報処理演習		1	(納庄聡)	
		ICTリテラシー (A)		1	(納庄聡)	
		ICTリテラシー (B)		1	(納庄聡)	

【幼・領域及び保育内容の指導法に関する科目】

施行規則に定める科目区分等		令和2年度以降				
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数		専任教員 氏名・職名	履修 方法
			必	選		
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	1		吉田升講師	
		人間関係	1		尾崎聡教授	
		環境	1		秋山智代講師	
		言葉	1		(浦上博文教授)	
		表現	1 1		(吉田升講師) 関野智子教授	
領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
●単位数		・教員の免許状取得のための必修科目 (選択必修科目の単位数を含む)		(新) 6 単位 / (旧) 6 単位		
		・教員の免許状取得のための選択科目		(新) 0 単位 / (旧) 0 単位		

施行規則に定める科目区分等		令和2年度以降				
育内容の指導法に関する科目	領域及び保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	授業科目	単位数		専任教員 氏名・職名	履修 方法
			必	選		
育内容の指導法に関する科目	領域及び保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	「幼児と健康」の指導法	2		(吉田升講師)	
		「幼児と人間関係」の指導法	2		(尾崎聡教授)	
		「幼児と環境」の指導法	2		(秋山智代講師)	
		「幼児と言葉」の指導法	2		浦上博文教授	
		「幼児と表現Ⅰ」の指導法	1		(吉田升講師)	
		「幼児と表現Ⅱ」の指導法	1		(関野智子教授)	
●単位数		・教員の免許状取得のための必修科目 (選択必修科目の単位数を含む)		(新) 10 単位 / (旧) 10 単位		
		・教員の免許状取得のための選択科目		(新) 0 単位 / (旧) 0 単位		

【幼二種免・教育の基礎的理解に関する科目等】

免許法施行規則に定める 科目区分等		令和2年度以降					
		授業科目	単位数		共通 開設 学校 種	専任教員 氏名・職名	履修 方法
科目 区分	各科目に含める必要事項		必	選			
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2			都田修兵講師	教育史を含む
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	保育者論・教師論	2			(都田修兵講師)	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2			(都田修兵講師)	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2			大賀恵子教授	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援の方法・保育と理解	1			(大賀恵子教授)	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）						
道徳、総合的な学習の時間等の指導、教育相談に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育課程論及び教育の方法・技術論	2			原田俊孝准教授 (都田修兵講師) (福野裕美准教授) (秋山智代講師)	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）を含む
	幼児理解の理論及び方法	幼児理解及び保育相談	2			(大賀恵子教授)	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法を含む
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法						
教育実践に関する科目	教育実習	事前・事後指導 幼稚園教育実習	1 4			(都田修兵講師) (都田修兵講師)	
	学校体験活動						
	教職実践演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	2			(浦上博文教授) (都田修兵講師) (秋山智代講師)	
●単位数		・教員の免許状取得のための必修科目 (新) 20 単位 / (旧) 20 単位 (選択必修科目の単位数を含む) ・教員の免許状取得のための選択科目 (新) 0 単位 / (旧) 0 単位					

※1 当該学科等の名称変更をした場合は、「平成〇〇年度より、〇〇学科が××学科へ名称変更済」と欄外に記載すること。

※2 科目名称や単位、専任教員を変更しない箇所も上記記載例のとおり併せて記載すること。

各教員が有する学位及び業績

教員名	尾崎 聡	学位	文学修士	職名	教授
担当科目	幼児と人間関係、「幼児と人間関係」の指導				
専門分野	哲学				
最終学歴	昭和 61 年 3 月	岡山大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻修了			
これまでの主な経歴	昭和 62 年 11 月 平成元年 4 月 平成 8 年 4 月 平成 12 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 13 年 4 月 平成 14 年 4 月 平成 18 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 29 年 4 月	岡山女子短期大学非常勤講師（平成元年 3 月まで） 岡山女子短期大学講師（平成 8 年 3 月まで） 岡山女子短期大学（平成 12 年 4 月岡山短期大学に校名変更）助教授（平成 14 年 3 月まで） 島根県立大学非常勤講師（民俗文化論 担当）（現在に至る） 川崎医療短期大学非常勤講師（文化人類学 担当）（現在に至る） 倉敷芸術科学大学非常勤講師（生活と文化 担当）（平成 16 年 3 月まで） 岡山学院大学人間生活学部生活情報コミュニケーション学科（平成 16 年 4 月人間情報学科に名称変更）助教授（平成 18 年 3 月まで） 岡山学院大学人間生活学部人間情報学科教授（平成 19 年 3 月まで） 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科教授（平成 24 年 3 月まで） 岡山短期大学幼児教育学科教授（現在に至る） 岡山短期大学幼児教育学科 主任教授（現在に至る）			
これまでの主な研究業績	<p>（著書）</p> <ol style="list-style-type: none"> 『建部町史 民俗編』 『美作の護法祭』 『上齋原村史 民俗編』 『牛窓町史 民俗編』 『長船町史 民俗編』 『祭礼行事 第 3 6 巻 岡山県』 『倉敷市史 8（自然・風土・民俗）』 『金光町史 民俗編』 『井原市史・民俗編』 『金光町史 本編』 『奥津町の民俗』 『井原市史第 1 巻通史編』 『岡山県の会陽の習俗』 岡山県の歴史シリーズ 図説倉敷・総社の歴史 年中行事大辞典 「Made in KOJIMA」第 1 章「児島の歴史」 <p>（学術論文）</p> <p>民俗学・人文科学方法論関係</p> <ol style="list-style-type: none"> ディルタイの精神科学における「意味(Sinn)」「意義(Bedeutung)」のカテゴリーの成立 ディルタイの精神科学方法論―「理解」概念の発展― 人生設計の学の体系構築に向けて―報告その① ライフヒストリーについて― ディルタイ解釈学の内的成立過程 岡山城石垣の構築諸年代 日本倫理における神と仏―神仏習合における日本人間関係― 写真で見る岡山の民俗「シン垣と防塁」(付)高屋城付近の鳥瞰図 戦乱の世をいかに戦ったか(付)匠ヶ城縄張り図 「岡山の中世石塔の特色と民俗学的諸問題」―小米石・豊島石の異形石塔、和泉砂岩の一石五輪、花崗岩の畿内式石塔をめぐって― 「現代倫理の諸問題と倫理学講義(古典倫理から現代倫理へ)」その①比較歴史民族学的視点から生命倫理を考察する 「現代倫理の諸問題と倫理学講義 その②」映像人類学的考察の試み：ミッシェル・フ 				

	<p>ーコー『狂気の歴史』『監獄の誕生』の世界をフランシス・コッポラ版『ドラキュラ』（原作 B・ストーカー）に見出す</p> <p>12. 「歴史的・民俗的景観図作成の試み」ー中国山地最奥部の谷筋に見る中世的生活の痕跡（苫田ダム水没地区調査から）ー（付）苫田ダム水没地区歴史的・民俗的景観図</p> <p>13. 古石塔の立つ光景（古墓地、家系伝承、先祖顕彰）～歴史的民俗的景観図作成の試み その②～</p> <p>14. 「土居」考～歴史的・民俗的景観図作成の試み その③～</p> <p>15. 備中高松合戦前哨戦における秀吉の陣城「鍛冶屋山城」ー伝承と軍記録と遺構ー</p> <p>16. 「城山」について～歴史的・民俗的景観図作成の試み その④～</p> <p>17. 城郭研究及び軍記研究から見た備中忍山城合戦と合戦場の諸城ー（附）忍山城に相対する陣城「信倉城」の縄張図下書き（光畑克己氏遺作</p> <p>18. 土居の景観（土居の伝承と地中から出現した土居）～歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑤～</p> <p>岡山学院大学・岡山短期大学紀要</p> <p>19. 井原市の中世山城</p> <p>20. 尼子勢力掃討戦における毛利氏の城郭に関する一考察～備中高屋城（岡山県井原市）および高屋城合戦（永禄12年）を例に～</p> <p>21. 備中井原の土居について一言説と実在性ー（～歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑥～）</p> <p>22. 「歴史的・民俗的景観を記述することの人間存在論的意義について、苫田ダム水没地区を事例に）～歴史的・民俗的景観図作成の試み その⑦～」</p> <p>23. 地域アイデンティティ創出と伝説的世界の時空間～北条早雲の里の景観～（歴史的・民俗的景観図作成報告 その①）</p> <p>24. 新『幼稚園教育要領』における領域「人間関係」その①～対象について（改訂の歴史から）</p> <p>25. 新『幼稚園教育要領』における領域「人間関係」その②指導法について（遊びの場面の言葉がけ等から）</p>
学会及び社会における活動等	<p>岡山大学哲学・倫理学会会員（現在に至る）</p> <p>岡山民俗学会会員（現在に至る）</p> <p>同学会理事（平成16年4月～現在に至る）、同学会誌 編集委員（平成9年4月～現在に至る）</p> <p>日本宗教民俗学会会員（現在に至る）</p> <p>岡山大学日本思想史研究会会員（現在に至る）</p> <p>日本幼少児童健康教育学会会員（現在に至る）</p> <p>倉敷市市民講座において講師として奉仕活動</p> <p>岡山民俗学会理事（現在に至る）</p> <p>倉敷市立天城幼稚園学校評議員（現在に至る）</p> <p>倉敷市文化財保護審議会委員（現在に至る）</p> <p>倉敷市文化財保護審議会会長（現在に至る）</p>

教員名	浦上博文	学位	教育学修士	職名	教授
-----	------	----	-------	----	----

担当科目	保育・教職実践演習（幼稚園）、 幼児と言葉、「幼児と言葉」の指導法	
専門分野	国語	
最終学歴	昭和58年3月	岡山大学大学院教育学研究科修士課程（国語教育専攻）修了
これまでの主な経歴	昭和52年4月	岡山県倉敷市立工業高等学校常勤講師（国語科担当）（昭和53年3月まで）
	昭和53年4月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教諭（国語科担当）（昭和56年3月まで）
	昭和56年4月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校非常勤講師（国語科担当）（昭和57年3月まで）
	昭和57年4月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教諭（国語科担当）（平成16年3月まで）

	平成 8 年 4 月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校国語科主任（平成 16 年 3 月まで）
	平成 13 年 4 月	広島県私立福山暁の星女子中学・高等学校教務部副部長（平成 16 年 3 月まで）
	平成 16 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科専任助教授（平成 19 年 3 月まで）
	平成 16 年 4 月	岡山学院大学人間生活学部非常勤講師（現在に至る）
	平成 19 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科専任教授（令和 2 年 3 月まで）
	平成 24 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科主任教授（平成 28 年 3 月まで）
	令和 2 年 4 月	岡山短期大学幼児教育学科特別専任教授（現在に至る）
これまでの主な研究業績		<p>（著書）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師のための表現分析の手引 2. 文章を作る過程の指導 <p>（学術論文）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 説明の文章を作る言語行為の指導に関する研究①高等学校 2 年生の場合 2. 説明の文章を作る言語行為の指導に関する研究②高等学校 2 年生の場合 3. 文章の作成過程を指導する教材 昭和 37 年版・47 年版・56 年版中学校教科書 教材の比較 4. 作文指導における教材の拡充 中学校 2 年生、意見文作成の場合に即して 5. 「文章の作成過程」と「言語表現の基礎」とを重視した指導第 2 学年の場合 6. 「持込み詞」による連文表現の基礎指導高等学校 2 年生の場合 7. 「説明、記録・報告の文章」の「文章構成の型」に関する調査 昭和 59 年版中学校教科書教材における 8. 「読書案内」作成の指導 9. 「評論・論説の文章」の「文章構成の型」に関する調査 昭和 59 年版中学校教科書教材における 10. 説明の文章を作成する指導 11. 文章構成の型を指導するための教材開発 12. 中学生の国語表現力に関する研究 文表現における問題点 13. 芥川龍之介「羅生門」の教材認識と基準授業案 14. 説明の文章を作る行為の指導 15. コンピュータを用いた読書指導 「読書案内」作成の実践 16. 考えるよう追い込む「発問」の条件 対立する発問によって思考力を育てる 17. 説明的な文章の教材認識 中学 2 年「文化というもの」（木村尚三郎）の場合 18. 中島敦「山月記」 「のだ」に着目して李徴の内面を読む 19. 漢字の習得力を鍛える 計画的・持続的・意欲的 20. 文章構成の「型」を重視した論説文作成の指導 四段型文章の場合 21. 梶井基次郎「檸檬」の教材認識 22. 連携によって情報を創り出す 23. 小学校作文教材の変遷 光村図書発行昭和 36 年版・55 年版国語教科書の場合 24. 初等・中等教育における作文教材の変遷 昭和 37 年版・47 年版・56 年版中学校国語教科書の場合 25. 初等・中等教育における作文教材の変遷 表現過程を指導する方法（昭和 30 年代～50 年代） 26. 保育者養成課程における国語表現指導 話し言葉（2 分間スピーチ）の場合 27. 保育者養成課程における国語表現指導

	連絡帳の書き方を指導するための教材開発 28. 「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」に関する漢字調査 保育者養成課程における漢字指導の改善を目指して 29. 短期大学生の誤字（平仮名）に関する調査 30. 小論文添削指導の事例 接続助詞「し」が出現した文の場合 31. 小論文添削指導の事例 接続助詞「たり」が出現した文の場合 32. 保育者養成における「言葉遊び」指導力の育成 33. 幼稚園教育要領における領域「言葉」の変遷—平成元年第2次改訂から29年第5次改訂まで—
学会及び社会 における活動 等	中国四国教育学会 表現学会 岡山国語談話会 岡山大学国語研究会

教員名	大賀恵子	学位	修士（教育学） 特別支援学校教諭二種 免許状	職名	教授
-----	------	----	------------------------------	----	----

担当科目	教育心理学、特別支援の方法・保育と理解、幼児理解及び保育相談、	
専門分野	教育心理学（自律訓練法）、教育学、発達心理学	
最終学歴	平成20年3月 平成24年3月	岡山大学大学院教育学研究科学校教育臨床専攻修了 武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科博士課程後期満期退学
これまでの主 な経歴	昭和61年5月 昭和61年8月 昭和62年10月 昭和63年4月 平成28年4月 平成31年4月 令和2年4月	倉敷翠松高等学校常勤講師国語（～S61.7） 倉敷高等学校常勤講師国語（S62.8） 倉敷市立多津美中学校常勤講師 数学（～S63.3） 倉敷高等学校教諭 国語（数学）（～H28.3） 岡山短期大学講師（～H31.3） 岡山短期大学准教授 岡山短期大学教授
これまでの主 な研究業績	（著書） 1. 「Kotsu2くんのダイヤモンド」 2. 『『現代保育論』現代保育内容研究シリーズ1』 3. 『子ども家庭支援の心理学（保育士を育てる）』 4. 『子ども家庭支援論（保育士を育てる）』 5. 『子どもの理解と援助（保育士を育てる）』 6. 『インターネットではわからない子育ての正解（幼児編）』一藝社 共著 （学術論文等） 1. 「自律訓練法の指導回数の違いが学級集団に及ぼす影響」 2. 「自律訓練法の指導回数の違いが学級集団に及ぼす影響」 3. 「高等学校における攻撃性に及ぼす自律訓練法の効果と実践の必要性」 4. 乳幼児の遊びに対する援助が保育者の資質に及ぼす影響—「こどもといっしょに運動会」を通して 5. 保育者を目指す学生の対人援助スキル向上に関する一考察—「相談援助」の授業から 6. 発達段階に応じた教育プログラムの開発と効果に及ぼす影響—教育心理学の領域から— 7. 発達障害における早期発見と保育者の支援に関する一考察—事例と課題— 8. 「触覚が乳幼児の発達段階に及ぼす影響—心地よさの観点による検証—」 9. コロナ禍における保育所校内実習の実践報告	
学会及び社会 における活動 等	日本自律訓練学会 日本自律訓練学会 第14回池見研究奨励賞 表彰式平成27年10月11日 （論文名「高等学校における攻撃性に及ぼす自律訓練法の効果と実践の必要性」）	

日本教育心理学会 日本ロールレタリング学会 日本教育カウンセリング学会 日本交流分析学会 日本ストレス学会 日本ストレスマネジメント学会 日本臨床動作学会 日本発達心理学会 日本保育学会 日本子ども学会
--

教員名	関野智子	学位	修士（教育学）	職名	教授
-----	------	----	---------	----	----

担当科目	幼児と表現Ⅱ、「幼児と表現Ⅱ」の指導法、幼児と図画工作	
専門分野	美術教育	
最終学歴	平成8年3月	岡山大学大学院教育学研究科美術教育専攻修了
これまでの主な経歴	平成8年4月 平成9年4月 平成10年4月 平成13年4月 平成13年9月 平成16年4月 平成17年4月 平成20年4月 平成20年9月 平成22年7月 平成23年1月 平成24年4月 平成25年7月 平成26年4月 平成28年4月 平成29年4月 令和2年4月 令和4年4月	倉敷市立短期大学服飾美術学科非常勤実習助手（～平成9年3月） 笠岡市立新吉中学校常勤講師（～平成10年3月） 倉敷市立西中学校教諭（～平成13年3月） 金光学園中学校・高等学校非常勤講師（～平成20年3月） 山陽新聞カルチャープラザ天満屋教室土曜絵画教室講師（～平成20年12月） 倉敷市立短期大学服飾美術学科非常勤講師（～平成17年3月） 岡山大学教育学部附属中学校非常勤講師（～平成18年3月） 川崎医科大学附属高等学校非常勤講師（～平成21年3月） 岡山短期大学幼児教育学科非常勤講師（～平成22年3月） 関野美術教室講師（～平成26年3月） 山陽新聞カルチャープラザ西大寺教室講師 勝央美術文学館「ちるどれんずあーとぶろぐらむ」講師 竜王保育園絵画講師 岡山県立総社南高等学校非常勤講師（エキスパート） 岡山県立高梁城南高等学校デザイン科非常勤講師 岡山短期大学幼児教育学科特別専任講師 岡山短期大学特別専任准教授（令和4年3月まで） 岡山短期大学特別専任教授（現在に至る）
これまでの主な研究業績	学術論文 1. 文化的環境としての学校（修士論文） 2. 学びの連続性に着目した保育園での造形活動について―「ひと」に着目をした実践を通して― 3. 地域と共に育てるワークショップ―寒河コミュニティー協議会とのとりくみ― 1980年代における学校施設の文化的環境づくりについて―1%システムの行方― 作品発表 ①二人 a ②列車待ち ③夜が来る ④桜の丘でⅡ ⑤YAKU ⑥次へ ⑦言葉を探して ⑧満ちる朝 ⑨朝に夕に―大地 ⑩零に立つ ⑪空を読む	

	<p>⑫花絨毯の午後 ⑬新風 ⑭夏の室内 ⑮潮風に ⑯遠くに波音 ⑰森の子・春 ⑱暮れゆく</p> <p>(教育実践記録等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学びの連続性に着目した保育園での造形活動について―「ひと」に着目をした実践を通して― 2. 地域と共に育てるワークショップ―寒河コミュニティ協議会とのとりくみ― 3. 学びの連続性に着目した保育園での造形活動について―「ひと」に着目をした実践を通して― 4. 地域と共に育てるワークショップ―寒河コミュニティ協議会とのとりくみ― 5. 学びの連続性に着目した保育園での造形活動について―「ひと」に着目をした実践を通して― 6. 地域と共に育てるワークショップ―寒河コミュニティ協議会とのとりくみ― 7. 自己肯定感を育む演習授業を目指して 8. 招き猫美術館との連携授業について 9. 未就学児を対象とした新聞紙スティックによる立体づくり
学会及び社会における活動等	<p>岡山県美術家協会 岡山県美術家協会設立から10年間 事務局・理事として協会の組織づくり、会報作成、教育普及活動の企画・立案、HPづくりに携わる。</p> <p>AMOKA プロジェクト 西粟倉村にある「天岡(あもか)公園」をものづくりや美術の楽しさを発信する基地として再生するプロジェクトに事務局として携わる。</p> <p>ちるどれんずあーとぶろじえくと 勝央美術文学館での4歳児～小学校2年生までを対象としたワークショップの講師をつとめる。</p> <p>天狗山登山・竹炭作り体験会 寒河コミュニティ推進協議会主催で年に1度開催される、地域の材(牡蠣殻・竹炭)を用いた工作ワークショップで講師をつとめる。</p> <p>新見美術館親子ワークショップ「絵の中に入ってみよう」「おもいでを描こう」 「新見市制施行10周年・美術館開館25周年テレビせとうち開局30周年北海道立近代美術館・札幌芸術の森美術館コレクションによるエコール・ド・パリ～パリに咲いた異邦人の夢～」付帯事業としての子ども対象のワークショップで講師をつとめる。</p> <p>アムス岡山店一日教室講師 アムス岡山店での一日教室の講師を年に1回つとめる。</p> <p>総社芸術祭 2019 参加企画美術展 2019 年の芸術祭参加に向けて、美術展の企画に携わっている。</p>

教員名	原田 俊孝	学位	修士(経営学)	職名	准教授
-----	-------	----	---------	----	-----

担当科目	教育課程論及び教育の方法・技術論	
専門分野	経営学、情報処理、キャリアデザイン	
最終学歴	平成23年3月	大東文化大学大学院経営学研究科経営学専攻(博士前期課程)
これまでの主な経歴	平成23年4月 平成25年3月 平成25年4月 平成30年4月 令和2年4月 令和3年4月 令和4年4月 令和4年4月	岡山短期大学幼児教育学科 助教 学校法人原田学園評議員(現在に至る) 岡山学院大学・岡山短期大学 学園主事・総務課長(現在に至る) 岡山短期大学幼児教育学科 講師(令和4年3月まで) 岡山学院大学・岡山短期大学 事務部長(現在に至る) 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 講師(令和4年3月まで) 岡山学院大学・岡山短期大学 准教授・副学長(現在に至る) 学校法人原田学園理事・副理事長(現在に至る)
これまでの主な研究業績	(学術論文等) 1. 短期大学のキャリアガイダンスにおけるシステム認識プロセスの適用の一考察	

	<p>2. 学校教育における情報機器の活用と課題</p> <p>3. 岡山短期大学幼児教育学科 Society 5.0 保育者養成コース開設 (共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号)</p> <p>4. Society 5.0 への取り組み (1) —岡山短期大学幼児教育学科での実践 — (共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号)</p> <p>5. Society 5.0 への取り組み (2) —岡山短期大学幼児教育学科での実践 — (共著・岡山学院大学・岡山短期大学紀要第 44 号)</p>
学会及び社会における活動等	日本キャリアデザイン学会

教員名	都田修兵	学位	修士 (教育学)	職名	講師
-----	------	----	----------	----	----

担当科目	保育者論・教師論、教育原理、教育制度論、事前・事後指導、幼稚園教育実習、保育・教職実践演習 (幼稚園)、教育課程論及び教育方法・技術論	
専門分野	教育学	
最終学歴	平成 27 年 3 月 平成 29 年 3 月	岡山大学大学院教育学研究科学校教育学専攻 (修士課程) 修了 広島大学大学院教育学研究科後期博士課程教育人間科学専攻中途退学
これまでの主な経歴	平成 27 年 5 月 平成 27 年 9 月 平成 28 年 4 月 平成 28 年 10 月 平成 29 年 4 月 平成 30 年 4 月	<p>国立大学法人広島大学非常勤職員 広島大学大学院教育学研究科ティーチング・アシスタント (TA) (平成 28 年 2 月まで)</p> <p>広島県立三次看護専門学校非常勤講師 (「論理的思考」を担当) (平成 28 年 3 月まで)</p> <p>国立大学法人広島大学非常勤職員 広島大学大学院教育学研究科クオリファイド・ティーチング・アシスタント (QTA) (平成 29 年 2 月まで)</p> <p>広島県立三次看護専門学校非常勤講師 (「教育学」を担当) (平成 29 年 1 月まで)</p> <p>岡山短期大学幼児教育学科助教</p> <p>岡山短期大学幼児教育学科講師 (現在に至る)</p>
これまでの主な研究業績	<p>(学術論文等)</p> <p>1. A Study of Acceptance of Emerson's Thought in Japan: Focusing on Tokoku Kitamura's Emerson</p> <p>2. R. W. エマソンの神秘主義思想とその教育的意義</p> <p>3. エマソンの超越主義的教育思想における神秘主義の意味</p> <p>4. エマソンの超越主義的教育思想のもつ宗教的特質</p> <p>5. R. W. エマソンの初期教育思想に関する研究—牧師の二重性と教育的空間の二重性に着目して—</p> <p>6. 大学教員の授業観に関する研究—教職科目の授業分析とインタビュー分析を通じて—</p> <p>7. 道徳授業の難点を大学における授業でどのように考えるか</p> <p>8. 新幼稚園教育要領における「道徳性・規範意識」に関する考察 (著作)</p> <p>1. 生き方を耕す小学校の道徳授業</p> <p>2. 「先生の先生になる」ための教育プログラムの現状と課題</p> <p>3. 宗教と道徳の関係について説明しなさい (共著)</p> <p>4. 道徳科における「道徳的諸価値」について説明しなさい (共著)</p> <p>5. 「特別の教科 道徳」における「内容項目 (A)」について説明しなさい (共著) (教育実践記録等)</p> <p>1. 「教職」の社会的意義と「自己信頼」による「教育的相互尊重」</p> <p>2. 教員の職務内容と「チーム学校」の関係に関する研究</p> <p>3. 教育方法及び技術の歴史的展開と教育方法としてのアクティブラーニング</p> <p>4. 年齢別保育指導案の作成と評価—「地藏鬼」を事例として—</p> <p>5. 保育指導案の書き方と保育現場における評価</p> <p>6. 日本における教育改革と教育制度としての幼児期の教育</p>	

	7. 学校における道徳教育の教育内容・教育方法再考（共著） 8. 学校と地域、教育行政の協働による学校安全の構築に関する研究 9. 「特別活動」と「総合的学習の時間」の目標と内容の関係 10. 自然を意識した道徳授業の理論的基盤に関する研究序説—エマソンの超越主義思想と自然観を手がかりとして— 11. 道徳授業におけるマンガ教材のための基礎的研究 12. 幼児教育における保育内容「環境」の重要性（共著） 13. 保育内容「環境」の指導案作成と1つの実践報告（共著） 14. Society 5.0 への取り組み（1）— 岡山短期大学幼児教育学科での実践 —（共著） 15. Society 5.0 への取り組み（2）— 岡山短期大学幼児教育学科での実践 —（共著）
学会及び社会における活動等	教育哲学会、教育思想史学会、日本道徳教育学会、日本道徳教育方法学会、日本デュエイ学会、日本ペスタロッチー・フレーベル学会、イギリス理想主義学会、中国四国教育学会、くらしき幼児教育ネットワーク

教員名	吉田 升	学位	博士（健康科学）	職名	講師
-----	------	----	----------	----	----

担当科目	体育実技、体育理論、幼児と健康、「幼児と健康」の指導法、幼児と表現Ⅰ、「幼児と表現Ⅰ」の指導法、幼児と体育（A）・（B）	
専門分野	運動生理学、環境生理学、健康科学	
最終学歴	令和元年9月	川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科健康科学専攻（博士（健康科学））
これまでの主な経歴	令和元年9月 令和元年9月 令和2年4月 令和3年4月	川崎医療福祉大学非常勤講師（健康体育実技（スポーツ系）、体育指導法C、健康体育基礎演習） 吉備国際大学非常勤講師（生涯スポーツ実習看護・作業、生涯スポーツ実習スポ社B） 岡山短期大学幼児教育学科助教 岡山短期大学幼児教育学科講師
これまでの主な研究業績	（学術論文等） 1. Effect of the Rotational Speed of a Long Jump Rope in a Person Turning the Rope on Heart Rate and Oxygen Uptake 2. 水泳中の息継ぎの指導法に向けての基礎的研究（1）—呼吸経路の変更に要する時間について— 3. グレープフルーツ果汁含有ミネラルウォーター摂取が低山登山中の水分摂取行動および尿中成分に及ぼす影響 4. 身体表現に対する保育学生の意識調査—保育内容「表現（身体）」の受講前調査— 5. ウェアラブル呼気ガス分析装置を用いた酸素摂取量の妥当性（査読付き） 6. 自閉症児者のエンパワメント向上のための水中運動教室の取り組み（査読付き）（教育実践記録等） 1. 幼稚園教育要領の領域「健康」における変遷 2. 幼稚園教育要領の領域「健康」における指導案の提案 3. 幼稚園教育要領の領域「表現」における変遷 4. 幼稚園教育要領の領域「表現」における指導案の提案	
学会及び社会における活動等	日本体力医学会、日本運動生理学会、日本登山医学会、日本幼児体育学会、日本宇宙航空環境医学会、日本体育学会	

教員名	秋山智代	学位	准学士	職名	講師
-----	------	----	-----	----	----

担当科目	幼児と環境、「幼児と環境」の指導法、保育・教職実践演習（幼稚園）、教育課程論及び教育方法・技術論
------	--

専門分野	幼児と環境	
最終学歴	昭和52年3月 平成3年3月	岡山女子短期大学（平成12年4月岡山短期大学に名称変更）幼児教育学科 卒業 武蔵野美術短期大学卒業
これまでの主な経歴	昭和52年4月 平成8年4月 平成14年4月 平成27年5月 令和3年9月	同心幼稚園 幼稚園教諭 主任（昭和63年3月まで） 幼児美術教室主宰（平成10年3月まで） 同心幼稚園 幼稚園教諭（平成27年3月まで） 第二まこと幼稚園 幼稚園教諭（令和3年3月まで） 岡山短期大学幼児教育学科特別専任講師（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（教育実践記録等） 1. 「生活科」、「総合的な学習」学習指導方法 2. 「生活科」「総合的な学習」指導教員	
学会及び社会における活動等	なし	

教員名	河原真理	学位	音楽学士	職名	講師
-----	------	----	------	----	----

担当科目	幼児と音楽 (A), 幼児と音楽 (B), 幼児と音楽 (C), 幼児と音楽 (D)	
専門分野	音楽	
最終学歴	昭和58年3月	武蔵野音楽大学器楽科 ピアノ専攻 卒業
これまでの主な経歴	昭和58年4月 平成元年6月 令和4年4月	岡山女子短期大学（平成12年4月岡山短期大学に名称変更）幼児教育学科非常勤講師音楽I担当（昭和62年3月まで） 岡山女子短期大学幼児教育学科非常勤講師音楽I担当（令和4年3月まで） 岡山短期大学幼児教育学科特別専任講師（現在に至る）
これまでの主な研究業績	（その他） 1. 岡山県新人演奏会 2. 岡山女子短期大学教員演奏会 3. 岡山女子短期大学教員演奏会 4. 岡山女子短期大学教員演奏会 5. 開学40周年記念演奏会 6. 岡山女子短期大学教員演奏会 7. 岡山女子短期大学教員演奏会 8. 岡山女子短期大学教員演奏会 9. 武蔵野音楽大学アンサンブル演奏会 10. 岡山女子短期大学教員演奏会 11. 岡山女子短期大学教員演奏会 12. 岡山女子短期大学教員演奏会	
学会及び社会における活動等	なし	

教員名	福野裕美	学位	修士（教育学）	職名	准教授
-----	------	----	---------	----	-----

担当科目	教育課程論及び教育方法・技術論	
専門分野	教育学	
最終学歴	平成23年3月	筑波大学大学院博士後期課程人間総合科学研究科教育基礎学専攻単位取得退学
これまでの主な経歴	平成19年4月 平成20年8月	ティーチング・アシスタント（筑波大学）（平成23年3月まで） リサーチ・アシスタント（筑波大学）（平成20年12月まで）

	平成 21 年 2 月 平成 22 年 4 月 平成 23 年 4 月 平成 24 年 4 月 平成 30 年 4 月	土浦協同病院附属看護専門学校 非常勤講師 担当科目「教育学」 (平成 23 年 3 月まで) 日本学術振興会特別研究員 (DC2) (平成 23 年 3 月まで) 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 助教 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 講師 (平成 30 年 3 月 まで) 岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科 准教授 (現在に至る)
これまでの主な 研究業績	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 『要説 教育制度 新訂第二版』 『講座 日本の高校教育』 『認知的個性 違いが活きる学びと支援』 『要説 教育制度 新訂第三版』 『現代教育制度改革への提言/上』 『MINERVA はじめて学ぶ教職② 教職論』 『最新 教育キーワード 155 のキーワードで押さえる教育』 『新・教職課程演習 第 4 巻 教育法規・教育制度・教育経営』 <p>(学術論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 「学業優秀者支援施策におけるアクセス拡大の取り組みに関する一考察—米国カリフォルニア州のアドバンスト・プレイスメント・プログラムを事例として—」(修士論文) 「米国アドバンスト・プレイスメント・プログラムにおけるアクセス拡大に関する一考察—全米レベルの取り組みに焦点をあてて—」 「米国カリフォルニア州のアドバンスト・プレイスメント・プログラムにおけるアクセス拡大の取り組みと課題」 「米国 Advancement Via Individual Determination プログラムの起源に関する考察」 「平成 29 年改訂学習指導要領と階層間格差の問題—教育課程企画特別部会の議論に焦点をあてて—」 米国 AVID プログラムの実態の解明—カリフォルニア州サンディエゴ市のサン・イシドロ高校を事例として—」(査読付) 「米国の大学進学アウトリーチ・プログラムの展開」 <p>(その他)</p> <p>〈依頼原稿〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 「不利な状況にある生徒のための大学進学準備システム—米国の AVID プログラム—」 (学会発表) 「米国カリフォルニア州における AP プログラムのアクセス拡大施策の特質と課題—州教育委員会・学区教育委員会・学校の取り組みに着目して—」 「米国アドバンスト・プレイスメント (AP) プログラムのアクセス拡大の支援方策—大学進学準備プログラム (AVID Program) の内容に着目して—」 「イラン映画を通して考える教育制度の問題」 「米国 AVID プログラムの特質と課題—カリフォルニア州サンディエゴ地区のサン・イシドロ高校を事例として—」 「米国の不利な状況にある生徒を対象とした大学進学支援策の成立過程」 「米国 AVID プログラムの意義と課題—2000 年頃のサンディエゴ学区教育改革の展開に焦点をあてて—」 「アドバンスト・プレイスメント試験におけるデジタル化の現状と課題—全米レベルの動向に焦点をあてて—」 	
学会及び社会に おける活動等	日本教育制度学会 大学教育学会 日本教育学会 アメリカ教育史研究会 日本比較教育学会	

教員名	納庄 聡	学位	教職修士（専門職） 高等学校教諭専修免許状 情報・数学 中学校教諭専修免許状 数学	職名	講師
-----	------	----	--	----	----

担当科目	情報処理基礎、情報処理演習、ICTリテラシー（A）（B）				
専門分野	情報教育学、教育方法学、プログラミング教育、データサイエンス教育、情報活用能力				
最終学歴	平成24年3月 平成26年3月	立命館大学 情報理工学部情報コミュニケーション学科 卒業 京都教育大学大学院連合教職実践研究科授業力高度化コース修了			
これまでの主な経歴	平成25年9月 平成26年4月 平成27年9月 平成28年4月 平成29年4月 令和2年4月 令和3年4月 令和4年4月	木津川市立木津第2中学校非常勤講師（H25/10まで） 京田辺市立田辺中学校非常勤講師（H28/03まで） 大阪府立寝屋川高等学校非常勤講師（H28/03まで） 大阪府立香里岡高等学校 常勤講師（H29/03まで） 甲子園学院中学校高等学校 教諭（R2/03まで） 嵯峨野高等学校 常勤講師（R3/03まで） 芦屋学園中学校高等学校 常勤講師（R4/03まで） 岡山学院大学 講師（現在に至る）			
これまでの主な研究業績	<p>（著書）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的に学び意欲を育てる教学改善のすすめ－相互理解のための理論と実践－共著 2. アクティブラーニングに導く教学改善のすすめ 共著 （学術論文） 1. 教科の学習目的を達成するための ICT 機器の活用に関する一考察 2. マルチアクセス環境における LMS を活用した豊かな学びに関する実践と評価 3. プログラミング的思考の向上を目的とした自己調整学習モデルの開発と評価（査読付） （学会発表） 1. 中学校数学科における表現向上を目指す実践（1）－ふきだし法の活用を通して－ 2. 思考力・表現力を高める指導法に関する一考察（1）－生徒のノート指導の観点から－ 3. 創造力に着目した ICT 機器の活用－図形分野における授業実践を通して－ 4. 数学的コミュニケーション活動による協調的課題解決能力の向上に関する実証研究（1） 5. ジグソー学習を取り入れた情報活用能力の育成 6. アクティブラーニングを取り入れたプログラミング教育の実践と評価（1）－LMS の活用による対話的・主体的で深い学びを通して－ 7. 自己調整学習を取り入れたプログラミング教育の実践と評価－LMS の活用による対話的・主体的で深い学びを目指して－ 8. プログラミング的思考の向上を目的とした自己調整学習に関する研究（1）－プログラミング的思考と学習状況に関するアンケート調査より－ 9. プログラミング的思考における各思考スキルの体系化の試み－小学校学習指導要領改訂において－ 10. プログラミング的思考の向上を目的とした自己調整学習に関する研究（3）－自己調整学習モデルを取り入れた実践－ 11. 高等学校における Processing を用いたデジタルアート作成と成果 12. プログラミング的思考を目的とした自己調整学習に関する研究（5） 13. 自己調整学習モデルを用いたプログラミング教育実践の改善と成果 				
学会及び社会における活動等	<p>学習科学研究会 評議員 日本教育情報学会 評議員、年会企画委員 幹事 情報コミュニケーション学会</p>				

その他非常勤講師

近 勝彦 大阪市立大学大学院 教授 法学修士 (広島大学)

大羽敬子 現職なし 学士 (広島大学教育学部教科教育学科音楽教育学専攻) 中学校
教諭一級普通免許状 (音楽) (昭五九中一普第九九二号) 高等学校教諭二級
普通免許 (音楽) (昭五九高二普第一〇五〇号)

荒木淳子 現職なし 学士 (武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻)

門田晶子 現職なし 学士 (武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻)

花田春香 現職なし 修士 (社会学) (一橋大学)

三 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること。

授業科目ごとの授業の方法及び内容は本学ウェブサイトのシラバス参照

(<https://owc.ac.jp/cms/wp-content/uploads/2020/04/2020yokyosyllabus.pdf>)

2年間の授業計画

	授業科目	単位数			開講単位		セメスター開講単位数				週当時間数			
		必修	選択	計	1年	2年	1年前	1年後	2年前	2年後	1年前	1年後	2年前	2年後
基礎 教育 科目	日本国憲法		2	2	2			2				2		
	情報処理基礎		2	2	2		2				2			
	情報処理演習		1	1	1			1			2			
	ICTリテラシー(A)		1	1		1			1			2		
	ICTリテラシー(B)		1	1		1				1				2
	キャリアガイダンス		2	2	2			2			2			
	英語(A)		1	1	1		1				2			
	英語(B)		1	1	1			1				2		
	体育実技		1	1	1		1				2			
	体育理論		1	1		1				1				1
	専門 教育 科目	教育心理学	2		2	2		2				2		
特別支援の方法・保育と理解			1		1		1				2			
保育者論・教師論			2	2	2			2			2			
教育原理		2		2	2		2				2			
教育制度論			2	2		2			2				2	
幼児理解及び保育相談			2	2	2		2				2			
事前・事後指導			1	1		1		1	1			1	1	
幼稚園教育実習			4	4		4				4			(160)	
保育・教職実践演習(幼稚園)			2	2		2				2				2
教育課程論及び教育方法・技術論		2		2	2			2				2		
幼児と健康		1		1	1			1				2		
「幼児と健康」の指導法		2		2		2			2				2	
幼児と人間関係		1		1		1			1				2	
「幼児と人間関係」の指導法		2		2		2				2				2
幼児と環境		1		1		1			1				2	
「幼児と環境」の指導法		2		2		2				2				2
幼児と言葉		1		1	1		1				2			
「幼児と言葉」の指導法		2		2	2			2				2		
幼児と表現 I		1		1	1		1				2			
「幼児と表現 I」の指導法		1		1	1			1				2		
幼児と表現 II		1		1	1			1				2		
「幼児と表現 II」の指導法		1		1		1			1				2	
幼児と音楽 I (A)		1	1	1		1				2				
幼児と音楽 I (B)		1	1	1			1				2			

幼児と音楽Ⅰ(C)	1		1		1			1				2	
幼児と音楽Ⅰ(D)	1		1		1				1				2
幼児と音楽Ⅱ(A)	1		1	1			1				2		
幼児と音楽Ⅱ(B)		1	1		1			1				2	
幼児と体育(A)	1		1		1			1				2	
幼児と体育(B)	1		1		1				1				2
幼児と図画工作		1	1	1		1				2			

四 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること。(令和3年度)

卒業生数(男・女)	0	41
幼稚園教諭二種免許状取得者数(男・女)	0	37

五 卒業者の教員への就職の状況に関すること。(令和3年度)

教員就職者数 保育教諭9人 幼稚園教諭2人

六 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること。

平成24年度「私立大学教育研究活性化設備整備事業」(文部科学省)

本事業は、私立大学が建学の精神と特色を生かした人材育成機能を発揮し、及び大学間連携を進め、もって社会の期待に十分に答える教育研究を強化し、進展させ、私立大学等の教育改革のこれまで以上の新たな展開を図るため、基盤となる教育研究設備を整備することを目的としている。

平成24年度の採択を受けて「模擬保育室・保育相談実践室を利用した保育実感力養成プログラム」を平成25年度から開始した。

このプログラムは本学が今後も2年間という短期の保育者養成カリキュラムの中で、「子どもの未来を育む心豊かな保育者」「現場に即応する保育者」を養成していく仕組全体を充実・改善させるために、カーペット、畳、乳幼児用の机・椅子、棚、絵本本棚、ままごとセット、雛人形・五月人形など年中行事の飾り、箱庭療法セットといった実際の保育施設さながらの設備・備品を施した模擬保育室・保育相談実践室を整備し教育実践に利用する取組である。

利用方法は日常の講義・演習・実習・実技・卒業研究など授業の中で模擬保育室を積極的に利用する。

教育成果は、本学の教育方針における「現場に即応する保育者」になる専門的学習成果と汎用的学習成果の獲得に対して、学習内容が抽象的になりがちな講義系科目においても、模擬保育室を利用して実際同様の保育空間のなかで実物に手をふれながら具体的イメージをもって学習内容を確認し、より確かな知識・技術を獲得し、より豊かな保育者としての精神を形成することができることである。もちろん演習・実技・実習科目においても大きな学習成果が期待できることは言うまでもない。模擬保育室を使った授業によって保育実

践力のひとつである保育実感が形成され、本学の他の取組で育成してきた人間関係力や人命尊重マインドに加えて保育者に必須な資質がもう一つ備わり、より「現場に即応した保育者」に近づく。

保育実感を備えた保育者とは、実際に具体的なイメージを思い浮かべながら保育空間を構成し、子どもの健康安全の維持向上に細心の注意で配慮しつつ、子どもたちが心身の調和のとれた成長ができるのに適切な保育室を設えることのできる保育実践者である。

目標達成の成果の検証・改善の仕組みとしては、期待される学習成果である「学習内容が授業の中で具体的イメージをもって、より確かな専門的知識・技術の定着が保育実感をもって形成されたかどうか」について、本学が日頃から教育目標・学習成果の達成度を評価するシステムとして採用している「学習成果を焦点にした質保証のための査定サイクル」にのせて向上・充実を図る。

毎月の学科 FD 会議の中で教育目的・目標を確認するとともに、その妥当性、適切性について専任教員を中心として話し合い、繰り返し点検している。さらに、前後期の授業実施後にその評価を行う中で、教育目的・目標に照らして妥当性、適切性を再確認している。また、学外における定期的な点検は、毎年卒業生の就職先訪問を実施し、施設長等から、本学の教育目的・目標に基づいた人材養成が保育現場の要請に応じているかどうかについて率直な意見を聴取している。その際に就職先アンケートも持参し、量的、質的な調査も実施している。この結果は、12月に開催する全学 FD・SD ワークショップの場で報告し、外部の評価者の評価も受けて点検結果を確認している